

## 「日本バプテスト連盟 結成記念日に祈る」

日本バプテスト連盟はこの4月3日に結成79年を迎えます。79年の歩みを主なる神さまが守り、導いてくださったことを覚え、心から感謝いたします。

私たち日本バプテスト連盟は、結成時の16教会から現在は全国で300を超える加盟教会と伝道所で組織されています。この日本キリスト教史における非常に大きな数的な成長・拡大の背景には、各地の加盟教会における祈りと証しの積み重ねとともに、アメリカの南部バプテスト連盟（SBC）の祈りと多大な経済的支援がありました。2000年以降、私たちとSBCとの関係性は変わりましたが、私たちの歩みを振り返りつつ、この祈りと支援への感謝は変わりません。そして私たちは、この連盟が各個教会の上に立つ組織ではなく、主イエス・キリストに従う諸教会が福音宣教のために結ばれた協力の交わりであることを、あらためて心に刻みたいと願います。

今、世界の情勢に目を向けるとき、多くの争いが起こり、命が奪われていることに心が痛みます。しかし、キリスト教会も宗教的正義を掲げて多くの命を奪ってきた歴史があります。キリスト者が自らを神の側におき、他の信仰を持つ者、文化的に異なる者に「悪」というレッテルを張り、正義の名のもとにその人格や命をないがしろにしてきました。それは、今も繰り返されています。そして、そのような信仰の姿勢と正義を振りかざすことは決して他人事ではなく、私たち自身の課題でもあります。

くしくも今年の連盟結成記念日2026年4月3日（金曜日）は教会の暦ではイエス・キリストが十字架につけられ、殺された受難日に当たります。イエスを十字架につけたのは、時の権力者だけではありません。自民族のプライドを取り戻し、日々の生活が豊かになることを望んだ群衆たちが「十字架につけろ」と叫んだのです。自分の価値観と、自分の期待という物差しを掲げ、人を批判する私たちと変わらない人たちです。

16から300余りへ。地上の数的なはかりでの成長を遂げた私たちは、与えられた経済的な恵みへの感謝を覚えつつ、そのはかりによって裁かれ、傷ついた者たちの小さくされた声に聴く者でありたいと願います。そして、改めて「天に宝を積んできたのだろうか」とその歩みを静かに振り返ります。

私たち日本バプテスト連盟が結成された1947年4月3日は、教会の暦では「洗足（せんぞく）の木曜日」に当たりました。最後の晚餐を前にして、主であるイエスご自身がひざまずき、食卓に着く弟子たちの足を洗ったという出来事を覚える記念日です。

食卓に着いた者の足を洗う、それは、当時の奴隷の仕事でした。恐れ多いと驚いた弟子たちにイエスは「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない」（ヨハネ福音書13：14）と言われました。これは、イエスの遺言ともいえる教えの一つです。

生きてきた背景が異なり、政治的な立場も異なる12人の弟子たちに対して、「自分と異なる相手の尊厳を大切にし、自分と異なる人たちと分かち合い、共に豊かになっていくこと」をイエスは望まれたのではないのでしょうか。

1947年、洗足の木曜日に歩み始めた私たちは、イエス・キリストの教えを心に刻み、大切にしていきたいと心から祈ります。

2026年4月3日

日本バプテスト連盟 理事会